

週報



国際ロータリー
第2560地区

2006~2007 年度
2006年9月25日 第1802回 本年度第10回

SanjoMinamiRotaryClub

2006~07年度
クラブ会報特別企画

【出席率】 会員62名中46名

【先々週の出席率】 93.22%

【ゲスト】 ライラ研修生 阿南大輔さん 増田 亨さん

【ヴィジター】 三条東RCより 栗山正男君
三条RCより 五十嵐昭一君 斎藤弘文君 渡辺喜彦君

【先週のメイクアップ】

9/12 渡辺ガバナーエレクト事務所開所式(新潟)へ
馬場信彦君 荏澤喜一郎君
9/15 吉田RCへ 丸田肇一君
9/21 加茂RCへ 飯山勝義君
9/21 三条東RCへ 鈴木囿彦君



あの人 あの時
荏澤 喜一郎 君

会長挨拶

馬場 一敏 会長

挨拶を致します。

1. 先週は休会で、久しぶりに土、日、月曜日にはロータリー行事のない週末でした。ゆっくりと溜まっていた家事(道楽)に汗を流しました。
2. 本日は、「新世代のための月間」です。巻での『ライラ』の研修、関係者の皆さんご苦労様でした。
3. 既に、三条高校「県民の森」の植栽のため地区に補助金申請していましたが、9月13日支給決定額2,700ドルと通知されました。これに基づき他に市内4クラブから1クラブ金3万円を加え、県民の森の苗木等寄贈資金とすることを、9月20日4クラブの担当者会議を開き決議致しました。
なお、詳細につきましては社会奉仕委員長から報告があります。
4. 当クラブの名誉会員である田中正佐久会員につきましてクラブで決定致しましたが、名誉会員の「証」がないことから「名誉会員之証」としての盾を贈ることになりました。本日の理事会で承認されましたので、早急に持参したいと思います。なお、名誉会員は本年の7月1日からの扱いになります。
5. 次週10月2日は中條ガバナー公式訪問の日です。VIP で行ないます。会長としては公式訪問と10月8日の地区大会を終了すればほぼ対外的なロータリーの行事は終了と考えております。その後はクラブ内の行事になります。諸先輩方も『公式訪問』と『地区大会』までが前半のヤマと言っておられました。このことをしみじみと実感しております。中條ガバナーは当三条地区、お互いに勝手を知っており、いくら取りつくりしても間に合わないの、ありのまま見ていただくこととなります。

国際ロータリークラブ会長 ウィリアム ビル ボイド [ニュージーランド]
第2560地区ガバナー 中 條 耕 二 [三条北]
第4分区アシスタントガバナー 桑 原 寛 治 [加 茂]
会 長 馬 場 一 敏 幹 事 田 代 徳 太 郎 SAA 広 岡 豊 樹
三条南ロータリー事務局 〒 955-8666 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫内
TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095
E-mail info@sanjo-minami.jp URL http://www.sanjo-minami.jp

幹事報告

田代 徳太郎 幹事

●渡辺敏彦ガバナーエレクト事務所より 事務所開設のご案内

所在地 ホテルオークラ新潟 6F
〒951-8053 新潟市川端町6-53
TEL 025-224-6400 FAX 025-224-6401
E-mail watanabe@rid2560.net
執務時間 月～金曜日 9:00～17:30

委員会報告

◎社会奉仕委員会 星野健司委員長

三条高校「県民の森」植樹祭のご案内とご協力をお願い

三条市内4ロータリークラブも協賛しております 県民の森の植樹祭が下記の通り行なわれます。
是非皆様にもご参加いただき1000本の苗木を植える協力を致したいと存じます。ご協力宜しくお願い致します。

とき 平成18年 9月30日(土)

ところ 新潟県立三条高等学校

- ※ 駐車場は、(株)コロナ駐車場 をご利用下さい。
- ※ 13:00～ 開園式 13:30～ 植樹祭 となります。
- ※ 作業の出来る服装で、軍手、ミニスコップ等をご持参下さい。

臨時総会

■2008～09年度会長候補者選出の件

馬場 一敏 会長

馬場信彦ガバナーノミニーの地区組織編成の関係上、臨時総会を開催し、2008～09年(馬場ガバナー就任年度)会長を選出致したいと存じます。9月4日開催されました指名委員会においてご推薦いただき、本日の理事・役員会にて承認されました **吉井正孝君** を本総会におきましてもご承認下さいますようお願い申し上げます。

満場一致にて承認されました。 有難うございました。

□2008～09年度会長 吉井 正孝 君 挨拶

鈴木武さん(鈴木会長の折、幹事を務めました)より熱心な説得を受けまして、お引受けすることに致しました。

胃癌の手術を致しましてから、癌の方は心配ないようですが、腸閉塞を起こすようになり、その後2度程入退院を繰り返し、体重も12kgも減ってしまいました。体力のないことが最も懸念されますが、ご縁があって入会させていただき16年、せっかくだいた機会ですので、何かお役に立てればとお引き受けした次第です。就任までの2年間、体力の回復に努め、皆様方の温かなご支援をいただきながら、職務を果たしたいと思っております。ご協力の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



吉井正孝君 ロータリー一歴 [1944(S19)年 9月17日生]

入会年月 1990年5月

1992～1993年度(佐藤英一会長)	新世代奉仕委員長
1993～1994年度(鈴木幸一会長)	クラブ会報委員長
1996～1997年度(鈴木 武会長)	幹事
1998～1999年度(橋本和雄会長)	職業分類委員長
2000～2001年度(安達 裕会長)	ロータリー財団委員長
2004～2005年度(石山荘一会長)	米山奨学委員長



～ 9月25日 ¥22,000 今年度累計 ¥224,000 ～

- 三条RC・ 第四銀行三条支店、四交会の旅行で吉田さん、田中さん、西巻さんから大変お世話になりました。
 齋藤君 お陰で楽しい旅行となりました。
- 三条・渡辺君 今日は久しぶりにお世話になります。
- 馬場(一)君 ライラの皆さんご苦労様でした。BOXに協力致します。
- 田代君 阿南さん、増田さん、ライラ研修ご苦労様でした。
- 鈴木(武)君 吉井さん、馬場信彦ガバナー年度の会長さんです。本当にご苦労様です。
- 吉田(秀)君 国際交流協会・インド小旅行、台風一過の道東旅行と楽しい週でした。西巻さん、田中悌司さん、家内共々大変お世話になりました。
- 滝口君 朝夕だいぶ涼しくなり、鍛造屋としては仕事がしやすくなりました。もう少し儲かる仕事が入らないかなあ！BOXに協力。
- 赤塚君 若井さん、ご苦労様です。今日は頑張って下さい。
- 丸山(徹)君 10月1日の米山奨学セミナーに参加できず田代幹事さんから出席していただくことになりました。すみません。
- 佐藤(栄)君 実りの秋、最高の日和です。
- 荒澤君、大溪君、白倉君、田中(久)君、田中(悌)君、銅冶君、西巻君、野崎君、野中君、船久保君、星野君
 BOXに協力致します。
- 佐々木君 ニコニコボックスにたくさんのご協力有難うございました。

新世代のための月間

「ライラ研修報告」

ライラ研修:9月9日(土)～11日(日)

於:新潟市越前浜「新潟県立青少年研修センター」

■若井 博 新世代奉仕委員長



新世代奉仕並びにライラ委員会の若井です。今日は担当月間ということで、先般(9月9日、10日、11日)3日間に亘って行われました、「第6回ライラ研修」の報告をさせていただきます。

まずもって今回は、当金庫の若手職員2名を研修生として参加させて頂き、貴重な体験をさせて頂きましたこと、この席をお借りして厚く御礼申し上げます。今回参加した阿南君、増田君両名とも、新規採用の厳しい時の入庫で、職場の同年代の仲間が少ないという点で、ちょっと気の毒に感じておりましたが、そういう意味でも今回3日間、多くの異業種の若者と出会い、また交流できたことで素晴らしい思い出をたくさん作れたのではないかと思います。

今回は分水RCのホストの下で、巻・越前浜の「青少年研修センター」を拠点としてスケジュールが進行されました。

- 研修テーマ:「自然との共生—過去から未来へ」
- サブテーマ:「日本の安全神話が崩壊する今、危機感を正しく理解しよう」

一昨年の7・13水害、中越地震と立て続けに起こった大災害を教訓として、この研修を通じて若い人達から、危機管理の検証を自分のものとしてしっかり意識付けしてもらいたいとのホストクラブの願いが込められたものであります。

今回は県内 2560 地区の研修生、ロータリアン合せて 175 名の参加でありました。研修内容を大まかにご報告いたしますと……

研修初日は、勇壮な分水太鼓に迎えられてのオープニングセレモニーのあと、二つの講演が用意されました。

ひとつは前山古志村長で衆議院議員の長島忠美(ただよし)氏による「中越地震・自然の恐怖と復興への道のり」、そしてもうひとつがあつた「亀の翁」で有名な久須美酒造社長の久須美記抽(のりみち)氏による「水害・地震の体験(亀の翁を守る)」というテーマでの講演でありました。

何れの話も行政の長として、また老舗蔵元のトップとして、非常時のリーダーの苦悩が伝わってくる実体験を下にした大変印象に残る内容でありました。

特に長島さんの話は、当時の現職村長としての行政上の立場と村、村民を思う気持とのジレンマ、想像を絶する現地の惨状とそこでの様々な人間模様、そして、リーダーとしての苦渋の決断等々…淡々とした中にも“ふるさと山古志”を思う強い気持がひしひしと伝わる、本当に胸が熱くなる感動的な話でありました。会場のあちこちですすり泣く声も聞こえましたし、若い人達も感銘を受けたことと思います。この長島さんの一時間半の講演だけでも3日分の価値が十分あったのではないかと感じております。

2日目の日曜日は体験学習主体の日程が組まれました。バスで分水町へ移動して、「信濃川工事事務所」、「大河津資料館」等で大河津分水の歴史を学びました。また災害時の危機管理の一環として、災害に備えたロープワークを地元消防団の方から熱心にご指導頂き、大変役に立ったと思います。

私は分水生まれの分水育ちでございまして、特に「大河津分水」のことだったら何でも聞け、と自信を持っておりましたが、今回の勉強の中で初めて知ったことがたくさんあり、自分の中ではちょっと反省させられました。改めて郷土の歴史を再認識できる機会となりまして、本当によかったなあと感じている次第です。

この日は午後から国上山の方へ移動、国上寺と五合庵を見学した後、メインの国上山登山という行程でしたが、国上山というのは見た目以上の結構な登山コースであり、折からの残暑(猛暑)も手伝って、研修生には相当ハードだったと思います。

いよいよ最終日3日目は、朝一番に北川フラム氏による講演がありました。上越市出身のアートディレクターでいらっしやいまして、今回十日町で開催された「大地の芸術祭」の総合ディレクターを務めた方ですが、これも自然との共生の中での「地域起しへのチャレンジ」という大変貴重な話だったと思います。

そして講演の後、最終日のまとめということで、3日間の研修を通しての感想を含めテーマである「自然との共生」についてのグループ討論、そして最後に各班別のグループ発表を行って研修の全日程が終了、最後に分水RCから次年度ホストクラブの新津中央RCへバトンタッチされ、3日間のライラが締め括られました。

以上が主な研修内容でしたが、この他にも夕食前後の時間帯には落語の講演が入ったり、地元の音楽教師を交えたコーラスタイム、或いはプロのロックバンドによる音楽ライブを楽しんだり、内容的には大変盛りだくさんでメリハリのあつた3日間であつたと思います。

改めて今回のライラ研修を振り返りまして、テーマである「自然との共生」の大切さが十分参加者に伝わつた内容であつたと思いますし、若い人達も夫々、公共の研修所という大変規律の厳しい窮屈な生活でしたが、地域も職業も違う多くの仲間たちとの出会い・友情・体験……きっと大きな財産になつたのではないかとと思います。ご苦労頂いた分水RCには、心から「ご苦労様でした」と申し上げたいと思います。

ただ一点感じたのは、今回研修センターの決まりでアルコール類は一切厳禁でした。私昨年ライラに出させて頂きましたが、昨年は屋外でのキャンプファイヤー、生ビールバーベキューで研修生・ロータリアン一体となつて大いに盛り上がったという一年前の状況を目の当たりにしているだけに、ちょっとギャップを感じたのも事実であります。やはり若者同士、ロータリアン同士、そして研修生とロータリアン、より一層のコミュニケーションという観点からは少し気の毒な環境だったかな、というのが正直な実感です。同行したロータリアンも相当禁断症状が出た方もおられた様でありまして、(そういう私も体が浄化されて)家に帰って飲んだビールが、普段の何倍も美味しく感じられました。

最後になりますが、今回参加者として寝食をともにしたわけですが、多くのロータリアンと交流できましたし、各地域の研修生からも若いフレッシュなエネルギーを十分頂いた様な気がします。何よりも当クラブ研修生として参加した阿南君、増田君、普段殆んど言葉を交すことのない同じ職場の若い二人と体験を共有できたことは私自身の忘れることのできない思い出のページとなりました。素晴らしい機会を与えて頂いたことに深く感謝申し上げます報告とさせていただきます。

■阿南 大輔 さん (三条信用金庫 東支店)

この度はライラ研修の機会を与您いただき大変ありがとうございました。研修は今月の9日から11日の3日間、新潟市越前浜にあります青少年研修センターで行なわれましたが、参加人数はロータリアン・研修生含め180名前後で、終始和やかなうちにも有意義なものでございました。特にロータリーの奉仕の精神と奉仕活動の実情をお聞きし大変感銘を受けました。日頃忙しい経営トップの皆様方が集まりをもち研鑽を怠らず努力されておられることを知り、私自身の日常生活が少し恥ずかしい思いでございました。

「自然と共生—過去から未来へ」をテーマとして3日間研修は進んでいきました。初日の研修では、前山古志村長の長島議員、久須美酒造の久須美社長よりお話を頂きました。テーマは災害ということで大変生々しくその時の情景が目には浮かぶほど細かな内容でした。お二方共通しておっしゃられていたことで大変印象に残つた言葉がありました。

「トップが迷う姿を見せてはならない」「判断を間違えてならない」「人命が最優先、命の修復は出来ない」



現場の最前線で苦難されたお二方のお話を聞くことはそうあることではないので良いチャンスに巡り合えたことをうれしく思います。

二日目は大河津資料館見学・災害に備えたロープワーク・国上山ハイキング等があり、実践的に自然を学び自然と触れ合うことができました。登山は何十年ぶりでしたので少々きつく、3日間はお酒は禁止だということも承知しておりましたが、この時だけはビールが恋しくなりました。また、この日には落語と音楽ライブの鑑賞もあり、当初ぎこちなかった仲間たちとの関係もこの日には一緒に汗を流し、一緒に笑い、一緒に盛り上がったことで絆が深まったと思います。

三日目の最終日には北川フラムさんの講演がありました。新しい街づくり・ふるさとおこしを提唱された大変貴重なお話でありました。

そして、最後に「自然との共生について」「3日間で学んだこと」の2つについてグループ討論をし、結論をまとめて発表を行いました。これをもって全研修日程を無事終えることができました。

この3日間は私にとって貴重な財産となりました。それは県内全域より集まった仲間達とつながりがもてたこと、また、ロータリー精神である「率先しよう」がすこしだけではありますが、身についたのではないかとことからです。また、今回のテーマは「自然との共生」でしたが、コミュニケーション不足が言われている昨今において人間が手と手を取りあって共生していくことが大事であると感じました。

以上が私のこの度の感想であります。ロータリアンの日頃の活動は、社会をより明るく、世界に平和を、そしてこのところ増加してきている若者の犯罪抑止にも貢献してくれるのではないかと思います。未熟者の私ではございますが、この度の研修を契機に社会に役立つ人間になるように努めたいと思います。

■増田 亨 さん（三条信用金庫 大崎支店）



私は、9月9日、10日、11日に2泊3日でライラ研修に参加させていただきました。このような研修は初めての経験ということもあり不安もありましたが、今振り返ると実に色々な事を学ばせていただきました。

研修では、講演や落語、音楽ライブの他、大河津分水資料館や国上寺、五合庵の見学、そして国上山ハイキング登山と様々な体験をしました。大河津分水資料館では、大河津分水ができるまでの経緯や新潟市や越後平野の発展に大きな役割を果たしてきたことを学び、また、私たちは自然に生かされているのだなということを強く感じました。講演の中で特に印象に残っているのは、一昨年の中越大地震で大被害を受けた山古志村の前村長で衆議院議員である長島忠美さんの講演で、次のような言葉がとても印象的でした。それは、「災害復旧で大事なことは、人間の心をどう失わずにいるかである。壊れた建物はお金と時間があれば解決できるが、解決できないものは人間の心である。」という言葉でした。実際に長島さんは災害時、避難所ごとにいつでも連絡がとれるように、自分の携帯番号を教え、住民といつでも向き合っていることを示すため、役所の電気を24時間つけっぱなしにするなどされていたそうです。また、仮設に住むあるおじいさんは、仮設に住むようになってから、隣の人の煮物の味を知り、心の距離も近くなったと長島さんにうれしそうに話し、感謝の言葉を述べたそうです。私は、人と向き合うことやまた自分がつらい時に、〇〇のおかげと感謝の気持ちを持つことの大切さを学び、またそうすることにより、これからのつらいことや困難もすこし前向きに考えることができるような気がしました。

最終日にはアートディレクターである北川フラムさんの講演を聞きました。北川さんは新潟県十日町市を中心とした過疎の地域活性化プロジェクトの総合ディレクターであり、同プロジェクトによる「大地の芸術祭」を今年も開催された方です。大地の芸術祭では都市の一流の芸術家が集まり、各々の作品を展示しています。彼らのおじいさん、おばあさんもまた過疎地におり、過疎化、高齢化は新潟だけの問題ではないので協力したいということで参加されているそうです。北川さんの話の中で、「地域が変わろうとする動きが必要である。また、地域の人々が頑張るのが良いのではなく、地域の人だけではだめと考えたほうが良い」とおっしゃっていたのがとても印象に残りました。

今回の研修のテーマは「自然との共生—過去から未来へ」です。私がこの研修を通し感じたことは、自然と共生していくためには、外部の協力が不可欠であるということです。山古志村の中越地震からの復興や、大地の芸術祭にしても外部からの支援や協力なしには成し得なかったのではないかと思います。そういう意味において、これからの地域社会の未来においては今まで以上に地域の枠を超えた結びつきを強化し、お互いをサポートしあい、新しい知恵を出し合うことが必要ではないかと思いました。そのために個人的にも、これからの生活において人と向き合う姿勢を大切にし、感謝の気持ちを忘れず、多くの人とふれあい、仲間を作り、自分を磨いていきたいと思いました。今回の研修においても、最初は名前も知らない人達と班を組むということで戸惑いもありましたが、自分から積極的に話しかけ、また行動を共にする中で次第に親しくなることができ、楽しい思い出もたくさん作ることができました。

最後になりますが、このような研修に参加する機会を与えて下さいました皆様に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

第 2560 地区



“尽くす”を目指す人

第 2560 地区

なかじょうこうじ

中條 耕二ガバナー

(三条北RC)

新潟



中條耕二ガバナーは、1986 - 87 年度、所属していた三条 RC から、藤田説量氏のガバナー就任を機に新クラブ創立の命を受け、見事、三条北 RC を誕生させ、初代会長に就任。その三条北 RC も創立 20 周年の節目を迎え、時を同じくしてのガバナー就任は、感無量でしょう。

初代会長時のテーマは、青少年健全育成。以来その理念を今日までもち続けています。「1 人の 100 歩より 100 人の 1 歩」。長女の就学と同時に、子どもたちの健全育成に力を入れ、戦後の非行化防止策の一環として政府が提唱した全国市町村民会議設立に沿って三条市青少年育成市民会議を 1980 年 11 月に設立し、初代会長として 10 年間にわたり活躍、その功績により文部大臣賞を受賞しています。

家庭にあっては、敦子夫人との間に 1 男 3 女の子に恵まれ、現在は長男夫妻と孫 1 人との同居です。鋼材販売の会社は長男に譲り、法人会会長をはじめとして、経済界、教育界と幾多の要職にかかわり、地域経済、教育の発展に貢献している一面もあります。

趣味も多彩です。小唄は天下一品。ハーモニカはガバナー退任後、老人ホームに慰問に伺いたいものだとか。中高時代は野球部、柔道部に所属し大活躍のスポーツマンでしたが、古希を迎えた今は、四十数年のキャリアを誇るゴルフが大いなる楽しみの様子です。抜群の行動力にいささかも変わりはないだけに、当地区の発展に寄与するものと、期待を寄せていただきたいと思います。

三条北 RC 齋藤 正

職業分類 - 鋼材販売 1936 年 3 月 30 日生。(株)ナカジョウ代表取締役会長。64 年三条 RC 入会。86 年三条北 RC 移籍、創立会長。ガバナー補佐。地区クラブ奉仕委員長。PHF。米山功労者。

四つのテスト

一言行はこれに照らしてから

I 真実か どうか

III 好意と友情を深めるか

II みんなに公平か

IV みんなのためになるか どうか